

「全国学力・学習状況調査」平均正答率東京都との差				「江戸川区学力調査」平均正答率全国との差									
学年		第6学年		学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
年度	国語	算数	合計	年度	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	
令和12年度の目標				令和12年度の目標									
令和11年度の目標				令和11年度の目標									
令和10年度の目標				令和10年度の目標									
令和9年度の目標				令和9年度の目標									
令和8年度の目標	0	0	0	令和8年度の目標	-5.0	-5.0	-7.0	-9.0	-9.0	-7.0	-1.0	-3.0	
令和7年度の結果	0	-2	-2	令和7年度の結果	-9.4	-11.6	-11.8	-9.2	-3.4	-5.6	1.0	0.0	
令和6年度の結果	-10	-12	-22	令和6年度の結果	-12.4	-16.9	-1.9	-5.4	-0.1	-1.0	-8.4	-10.2	
令和5年度の結果	-10	-12	-22	令和5年度の結果									

年度	令和7年度	令和8年度
内容	成果と課題	目標 目標達成に向けた取組
学校全体	(成果)第6学年は国語が全国水準を上回り、算数も概ね全国並みで推移している。 (課題)国語・算数とも全国平均との差が大きく、応用・記述式や「読む・書く」「思考・判断・表現」で差が出ている学年がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年で学習過程を共通化し、記述式・応用問題の正答率向上と無解答の低減を図る。 ・算数は「思考・判断・表現(説明する力)」を重点化し、文章題・図形等でのつまずきを系統的に改善する。 ・授業内で補充・再確認を行うことで、学年をまたぐつまずきの持ち越しを減らす。
第1学年	(成果)学習の型(聞く・まねる・書く・提出する)が少しずつ定着してきている。 (課題)ひらがなの習得差、語彙の不足、数のまとまり(10の構成)と加減の理解差が残りやすい。	<ul style="list-style-type: none"> ・ひらがなを正確に読み書きし、短い文(2~3文)で経験を表せるようにする。 ・10のまとまりを基に、たし算・ひき算の考え方を身に付ける。 ・文章題を「わかっていること→式→答え」の型で取り組めるようにする。
第2学年	(成果)学習の型が整い、短い文章を書くことや計算練習に取り組む姿が増えている。 (課題)漢字・語彙、読解の手順、くり上がり・くり下がりや九九につながる数量感の差が出やすい。	<ul style="list-style-type: none"> ・配当漢字の読み書きを定着させ、理由とともに短い文章(3~5文)を書けるようにする。 ・くり上がり・くり下がり計算と九九(意味理解→暗唱→活用)を確実にする。 ・文章題で図や式を用いて考えを説明できるようにする。
第3学年	(成果)基礎領域(漢字の読み書き、計算の一部)に一定の到達が見られる。 (課題)国語・算数とも全国平均との差が大きく、応用・記述式で無解答も含めた伸びしろが大きい。	<ul style="list-style-type: none"> ・国語:記述式・応用の正答率を高め、平均正答率の全国差を縮める。 ・算数:応用・記述式の無解答を減らし、式・図・言葉で説明する力を伸ばす。 ・語彙・資料の読み取りを改善する。
第4学年	(成果)算数ではデータの活用など一部領域に一定の到達が見られる。 (課題)国語は「読むこと・書くこと・記述式」、算数は「図形」および位取り(大きな数)で課題が大きい。	<ul style="list-style-type: none"> ・国語:読むこと・書くこと・記述式を重点化し、説明的文章の理解と根拠を示す記述を改善する。 ・算数:図形領域の達成率を高め、全国との差を縮める。 ・位取り(兆・億等)を確実にし、数量の関係を図や式で説明できるようにする。
第5学年	(成果)基礎領域は一定の到達が見られる。 (課題)国語・算数とも全国平均との差があり、特に応用・記述式および「思考・判断・表現」で差が大きい。	<ul style="list-style-type: none"> ・国語:平均正答率の全国差を縮め、記述式・応用の正答率を改善する。 ・算数:思考・判断・表現と応用・記述問題の正答率を高める。 ・無解答を減らし、「根拠を示して書く」「式・図で説明する」学習を定着させる。
第6学年	(成果)国語は全国水準を上回り、算数も概ね全国並みで推移している。 (課題)国語は「言葉の特徴や使い方」「情報の扱い方」、算数は「対称な図形」「立体図形」など単元の弱点が明確である。学力層差も大きい。	<ul style="list-style-type: none"> ・国語:「言葉の特徴や使い方」「情報の扱い方」を改善し、資料を根拠に説明・記述できる力を高める。 ・算数:「対称な図形」「立体図形」の弱点単元を改善し、全国水準を確実にする。 ・層別支援を行い、下位層の底上げと無解答率の低減を図る。